

GV-18iSD
インバーター発電機
かんたんガイド

本書は日々の使用のための始動方法や取り扱いのポイントを記載しています。必ず別冊の取扱説明書をお読みの上、製品を正しくご使用ください。

改良のため、予告なく仕様を変更する場合がございます。

製品の修理に関するお問い合わせは…工進修理受付窓口へ

0120-987-386 (通話料無料)

製品に関するお問い合わせは…お客様相談窓口へ

0120-075-540 (通話料無料)

平日：9:00～17:00

会社休業日・土日祝祭日を除く。

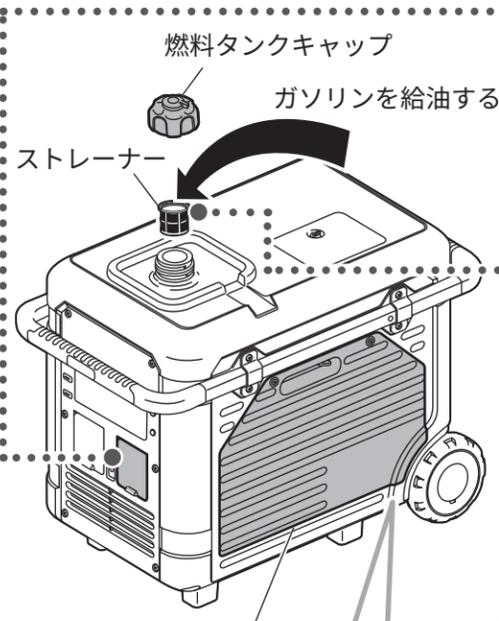
受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内します。

<https://www.koshin-ltd.co.jp>

株式会社 **工進**

運転前の点検

エンジンが停止していることを確認してから行ってください。



燃料タンクキャップ
ガソリンを給油する

ストレーナー

1 周波数切替スイッチを、使用する 50Hz 60Hz
接続機器の周波数に合わせる 周波数切替スイッチ

必ずアース端子を接続する

接続機器がアース付きプラグの場合は、必ずアース端子を接続してください。

2 ガソリンをキャップ内部のストレーナーにある給油限界位置(赤線)を超えないようにゆっくりと給油する

火気厳禁

使用燃料：無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）
燃料タンク容量：4.7 L

3 メンテナンスカバー、オイルプラグを外して、エンジンオイルを給油する

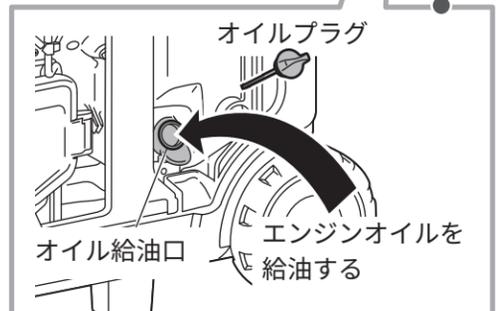
推奨オイル：4サイクル用エンジンオイルSE級以上
SAE10W-30
エンジンオイル規定量：0.4 L

オイルゲージ部分を布などで拭き、オイル給油口にさし込んでエンジンオイルの量を目盛りで確認してください。

上限オイル量

下限オイル量





メンテナンスカバー

オイルプラグ

エンジンオイルを給油する

オイル給油口

● 手動始動 … 右ページへ

● 【自動運転】セルスタート・自動始動停止 … 裏側へ

● 手動始動

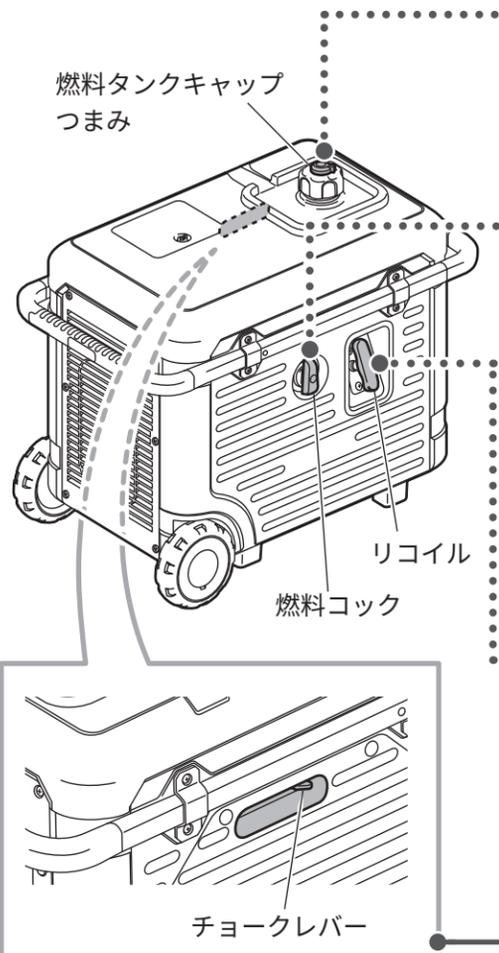
リコイルスターターグリップ(以下リコイル)を使用してエンジンを始動します。

詳細は、「取扱説明書」の17ページを参照してください。

手順番号①～⑤の順番に操作することで、発電機に慣れていない方も迷わずエンジンをかけることができます。

● 本体の『手順番号』について

● 発電機(エンジン)の始動

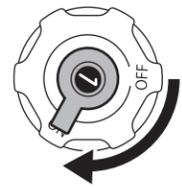
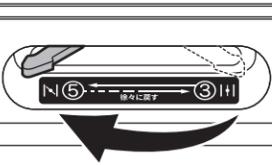
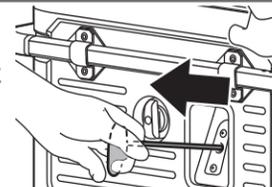
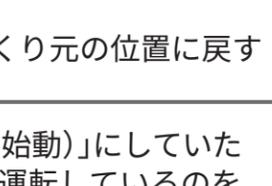


燃料タンクキャップ つまみ

リコイル

燃料コック

チョークレバー

- 1** 燃料タンクキャップつまみを「ON」にする
手順番号 ① 
- 2** 燃料コック兼エンジンスイッチを「ON(開)」にする
手順番号 ② 
- 3** チョークレバーを「N(始動)」の位置にする
手順番号 ③ 
エンジンが温まっている場合や夏期は「R(運転)」の位置にします。
- 4** リコイルを引いて重くなる場所を探して、重くなったところから勢いよく引く
手順番号 ④ 
- 5** 始動したらリコイルをゆっくり元の位置に戻す
- 6** 3でチョークレバーを「N(始動)」にしていた場合は、エンジンが安定して運転しているのを確認しながらチョークレバーを徐々に「R(運転)」に戻す
手順番号 ⑤ 
※3で「R(運転)」にしていた場合はそのまま
- 7** 暖気運転を行う

電気の取り出し

- 1** エンジンが始動していることを確認する
- 2** AC出力ボタンを押してAC出力を「ON」にする
- 3** 接続機器のスイッチが切れていることを確認する
- 4** 本機にプラグをさし込む
- 5** 接続機器のスイッチを入れる



ここがポイント!

AC出力ボタンがOFFで電気が取り出されない状態が続くと、アイドリングストップ機能によりエンジンが停止します。

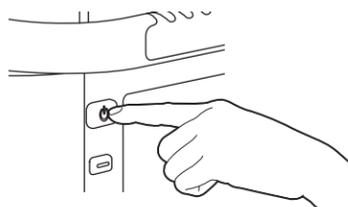
発電機(エンジン)を止める場合は

- 1** 接続機器のスイッチを切る
- 2** 接続機器のプラグを発電機(本機)およびポータブル電源のコンセントから抜く
- 3** 燃料コック兼エンジンスイッチを「燃料OFF(閉)」の位置にする
- 4** エンジンが充分に冷えてから燃料タンクキャップつまみを「OFF」にする

●【自動運転】セルスタート・自動始動停止

- ・詳細は、「取扱説明書」の22～23ページを参照してください。
- ・自動運転機能を使用すると、使用者や周囲の人にとって不意のタイミングで発電機のエンジンが始動します。エンジンの排気は有毒であり周囲の人・動植物にとって危険なこと、また排気は高温であり周辺機器破損のおそれがあることから、自動運転実施前に試運転を行い安全性を確認してください。

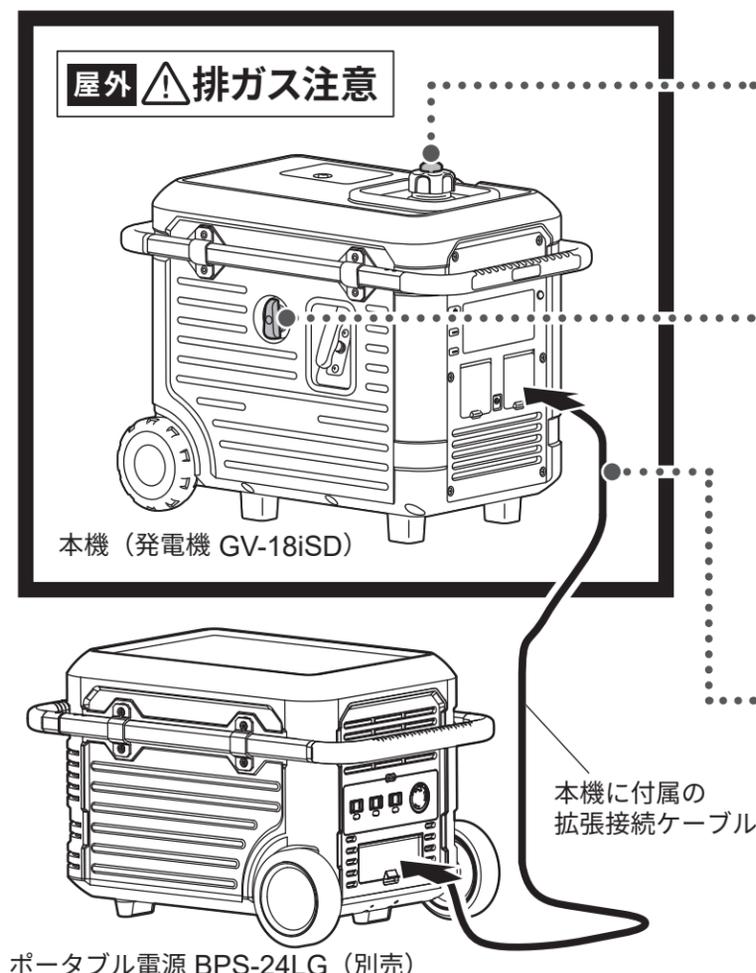
● 発電機(本機)とポータブル電源を接続し、ポータブル電源の電源を入れたときの挙動

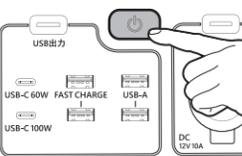
	ポータブル電源のバッテリー残量		
	30% 以上	21～29% (自動始動停止範囲)	20% 以下
発電機の挙動	・始動しない	1)ポータブル電源からの信号で本機が自動で始動し、ポータブル電源が充電を始める 2)満充電になった後、アイドリングストップ機能でエンジンが停止する	・始動しない
発電機のピーブ音		・エンジン始動前にピーブ音が1回鳴る	・ピーブ音が3回鳴る
発電機のLCDパネル	<ul style="list-style-type: none"> ・「」が点灯しない ・ポータブル電源接続表示が点灯する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「」が点灯する(満充電になると消灯する) ・ポータブル電源接続表示が点灯する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「」が点灯しない ・ポータブル電源接続表示が点滅する ・「LOW BATTERY」および「F45」が表示される 
備考		<ul style="list-style-type: none"> ・エンジンを任意で停止・始動したいときは、セルスタート・ストップボタンを押してください。  <ul style="list-style-type: none"> ・AC出力ボタンがONだとエンジンは自動で停止しません 	<p>対処</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 拡張接続ケーブルをポータブル電源につないだまま、ポータブル電源の電源を切る 2) 本紙反対面「手動始動」の方法で発電機を始動する 3) 発電機始動後、ポータブル電源の電源を入れる <p>以降本表左列「21～29%(自動始動停止範囲)」の挙動になります</p>

● ここがポイント!

- ・拡張接続ケーブルを接続し、かつポータブル電源の電源が入っているときは、リコイルを引かないでください。
- ・チョークの操作は不要です。

● 自動運転の実施



- 1 燃料タンクキャップつまみを「ON」にする
手順番号 ① 
- 2 燃料コック兼エンジンスイッチを「ON(開)」にする
手順番号 ② 
- 3 ポータブル電源の電源を切る

- 4 付属の拡張接続ケーブルでポータブル電源を接続する
- 5 ポータブル電源および拡張接続ケーブルが、発電機の排気・排熱に当たらないことを確認する
次の工程を行うと、ポータブル電源のバッテリー残量によってはエンジンが自動で始動します。必ずこの時点で設置環境を確認してください。
- 6 ポータブル電源の電源を入れる
ポータブル電源と発電機(本機)が自動運転状態になります。左ページ表の通りに作動するか確認してください。また、ポータブル電源のLCDパネル内、拡張接続表示が点灯します。

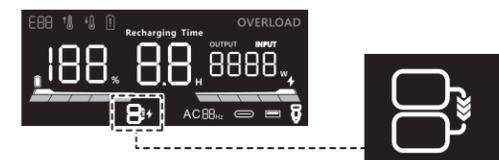
● ここがポイント!

- ・自動運転中にCO警告やガス欠などのトラブルで本機が停止した場合、安全のためポータブル電源からの始動信号を受け付けなくなります。燃料コック兼エンジンスイッチをOFF→ONして、リセットしてください。

通常停止、自動運転の解除

- 1 接続機器のスイッチを切る
- 2 接続機器のプラグを発電機(本機)およびポータブル電源のコンセントから抜く
- 3 燃料コック兼エンジンスイッチを「燃料OFF(閉)」の位置にする
- 4 エンジンが充分に冷えてから燃料タンクキャップつまみを「OFF」にする

〈ポータブル電源のLCDパネル〉



- 7 AC出力ボタンがOFFであることを確認する
AC出力ボタンがONだとエンジンは自動で停止しません。